CIVIC FORCE
シビックフォース ニュースレター
NEWS LETTER
vol.36
2025年夏号

①大船渡市の避難所2カ所で実施した布団乾燥支援　②大船渡市山林火災の被災現場の調査　③健康に配慮して新鮮な果物を配布　④5月24日より入居開始となった大船渡市綾里（りょうり）の仮設住宅で調査を実施

岩手・大船渡　山林火災から4カ月

避難所生活のニーズと課題に向き合う

岩手県大船渡市で2025年2月26日、大規模な山林火災が発生しました。市の面積の1割にあたる約3,370ヘクタールが焼失。1人が亡くなり、住宅90棟を含む226棟の建物が被害を受けました（大船渡市発表）。市内には一時12カ所に避難所が開設され、最大1,249人が避難。発災から41日目の4月7日に鎮火しましたが、その後も2カ所の避難所で60人近くが身を寄せていました。5月末、仮設住宅の完成とともに全ての避難所が閉鎖されましたが、一人一人のニーズが見えにくくなる分、今後も寄り添った丁寧な支援が必要とされます。

Civic Forceは2011年の東日本大震災で被災した大船渡市が再び被害にあったとの情報を受けて、被災地へスタッフを派遣。山林火災における緊急出動は初の挑戦でしたが、物資支援や避難所集約時の撤収・移設のサポート、布団の乾燥支援など避難所の環境改善に努めました。

今号では、2月末から続けてきた山林火災の被災地支援活動についてご報告するとともに、2024年の能登半島地震・豪雨の被害で復旧・復興の途上にある奥能登と東北地域で実施中の「NPOパートナー協働事業」の最新情報をお伝えします。

Yahoo!ネット募金で寄付受付中

企業の持つモノやサービスを、支援を必要とする人々へ届けるマッチングプラットフォーム「Good Links」。2025年5月末現在、77の組織が加盟し、災害支援や生活困窮者支援など、さまざまな場面で活用されています。より多くの企業・団体とつながり、支援の輪をさらに広げていくために、皆さまからのご寄付をお願いしています。現在、Yahoo!ネット募金にて寄付を受け付けています。

詳しくはこちら

被災地を支援する 1

岩手・大船渡 山林火災から4カ月

被災地支援のこれまでとこれから

岩手県大船渡市の山林火災から4カ月。
2月28日から支援を開始したCivic Forceは、これまでに物資配布や布団の乾燥支援などを通じて
避難所で暮らす人々の生活を支えてきました。

2/26 山林火災発生 1

27 情報収集開始

28 スタッフを派遣

避難所の食事は栄養が偏りがち。
フレッシュな果物が嬉しい！
by 三陸公民館避難者

3/2～ 物資配布開始 2

避難所へみかんやイチゴ、野菜ジュース、マスクなどを届け、健康に配慮した支援を継続的に行いました。

11～ 避難所の移設 3

3月10日、大船渡市は全ての避難者に避難指示の解除を発表。6カ所の避難所が2カ所に集約され、11日、旧避難所に設置されていた支援物資を新しい避難所に運びテントや段ボールベッドの片付け作業をサポートしました。

撤収作業の人手が
足りなかったので、
とても助かりました！
by 大船渡市職員

22～ お茶会の開催支援 4

3月～4月に計3回、避難所でのお茶会をお手伝い。ほっとした時間を過ごしてもらえるよう、淹れたてのコーヒーを提供しました。

4/12～5/11 布団乾燥支援 5

引越前にきれいにできて良かった！
by 仮設住宅への移動を控えた被災者

「長引く避難生活で布団のにおいが気になる」「敷きっぱなしでへたってしまった」。避難者の声を受けて、4月～5月の計6回、延べ115点の布団・まくらなどの乾燥・クリーニングの支援を行いました。仮設住宅の引越がせまる中、特に5月は多くの方が利用しました。

Staff Comments

避難所では、洗濯ができなかったり洗濯物を干す場所がなかったり、これまでの災害でも同じような課題が起きています。特に布団は衣類と違い、気軽に洗えない・干せないため、今回の支援実施につながりました。

Civic Force
プログラムコーディネーター
田上琢磨

5/24～仮設住宅支援 6

5月末で避難所が閉鎖となり、被災者の暮らしは次のステージへ移りました。
5月24日から入居開始となった旧綾里中仮設住宅にて調査を実施しました。

1

2

3

4

5

6

被災地を支援する 2

能登半島地震・豪雨／東日本大震災

復興を担う団体を支える「NPOパートナー協働事業」

被災地の復旧・復興を応援する「NPOパートナー協働事業」。
2025年6月現在、能登半島地震の被災地で3団体との協働事業を実施しています。
また、東日本大震災の被災地では3.11の経験を伝える「記憶の伝承」に力を入れています。

能登半島地震・豪雨

＼NEW／

珠洲市

自由研究

コミュニティ支援とアーカイブの構築

地震後、能登最北端の珠洲市で設立された任意団体「自由研究」。過疎化が進む中、コミュニティスペース「本町ステーション」を運営しながら、地域の人が気軽に立ち寄り、まちづくりの拠点となるような居場所を維持してきました。代表の松田咲香さんは珠洲市出身の写真家。NPOパートナー協働事業では地域の過去・現在・未来を内外に伝えるアーカイブの構築（まちの記憶を残す活動）を目指しています。

七尾市

一般社団法人ともえグループ居ばしょ食堂

駄菓子屋、はじめました！

七尾市を拠点に子どもの居場所づくりや自習室の運営を行う「居ばしょ食堂」では、5月13日から駄菓子屋を開設しました。子どもたちに“ワクワクできる時間”を提供しながら、子ども同士の交流やメンタルケアを目指します。放課後児童クラブや子育て支援センターなどへの出張販売なども予定しています。

共益投資基金JAPAN

「能登基金」を設立

詳しくはこちら

Civic Forceの寄付金を原資に設立された「共益投資基金JAPAN（通称：基金ジャパン）」は4月、能登半島地震で被災した企業の事業再生を支援する「能登基金」を立ち上げました。

東日本大震災

福島

特定非営利活動法人富岡町3・11を語る会

福島を手話で語れる人材を育てる

2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故によって全町避難を余儀なくされた富岡町をはじめとする福島県の状況を伝える「富岡町3・11を語る会」。聴覚に障がいのある人や手話通訳者に向けて実施した2024年の「語り人（かたりべ）育成講座」の成果を次につなげるべく、NPOパートナー協働事業では講座参加者のスキルアップとモニターガイドの実践に挑戦。2025年11月に日本で開催されるデフリンピックで、福島の経験を手話で語れる人材の育成も目指しています。

宮城

公益社団法人3.11メモリアルネットワーク

伝承活動の意義を可視化する挑戦

岩手・宮城・福島などで伝承活動に携わる87団体・1,088人（2025年5月26日時点）が参画する「3.11メモリアルネットワーク」。震災伝承の連携・企画・人材育成を柱に、各地の伝承団体の情報発信や研修・講座開催などを行っています。NPOパートナー協働事業では、これまで取り組んできた伝承活動の評価指標を活用し、登録団体・個人の語り部活動のスキルアップと担い手育成、震災伝承の意義を可視化する取り組みに挑戦しながら、伝承活動の底上げを図ります。

緊急即応体制を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるための
さまざまな取り組みを行っています。
メディア掲載や協力企業・団体の皆様の
関連情報もお知らせします。

和歌山県、和歌山県遊技業協同組合と協定締結

3月24日、和歌山県、和歌山県遊技業協同組合と災害連携協定を締結しました。災害が起きた際、和歌山県遊技業協同組合は加盟しているパチンコ店の施設や駐車場を提供、Civic Forceは物資の調達、供給、緊急輸送を行うなど被災地のニーズに基づいて活動する予定です。南海トラフ地震などで大きな被害が予想される和歌山県との連携を通じて、次の大規模災害に備えます。

※岸本周平前知事のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

物資配布活動を実施

4月15日、Civic Forceは佐賀女子短期大学の倉庫で、物資配布活動を行いました。この取り組みは、マッチングプラットフォーム「Good Links」の平時における生活者支援活動の一環として実施したもので、佐賀県内のNPO6団体が主催する「女性のためのほっとカフェ」で配布される物資として、不織布マスクや半袖Tシャツを提供しました。

講演・講座・セミナー情報

周南公立大学で講義

Civic Forceの根木佳織代表理事は4月28日、山口県の周南公立大学の国際ビジネス特論の授業で「社会問題を解決する～国際人道支援・災害対応」をテーマに講義を行いました。

アクサ生命保険で活動報告

5月30日、アクサ生命保険株式会社で、能登半島地震の被災地や支援活動の現状、災害時の民間連携の意義について伝える講演を行いました。

「東京グレートベアーズ 2024-25 チャリティーオークション」の開催報告

プロバレーボールチーム「東京グレートベアーズ」によるチャリティーオークションが5月19日から6月15日までの期間、4回にわたって開催されました。チャリティーオークションを通じてCivic Forceへご寄付いただいた支援金は、「令和6年能登半島地震」および「令和6年9月能登半島豪雨」の被災地支援活動に活用させていただきます。

メディア情報

05.07 新聞 日本経済新聞
「佐賀県、地域課題解決へ先進団体誘致
平時から連携し地元に刺激」

03.28 新聞 わかやま新報
「災害支援等の3者協定　県、和遊協、シビックフォース」

03.24 新聞 朝日新聞
「南海トラフ地震に備える　パチンコホールを避難所に」

03.11 TV NHK
「佐賀市の支援団体“今後も被災地域への支援を届けたい”」

03.07 TV NHK
「山林火災 ニーズが高かった果物などの支援物資
避難所に届く」

企業の皆様へ

寄付付き商品・サービスなど
様々な方法で
気軽にご支援いただけます！

1日33円からできること

次の大規模災害に向けて平時から備えておくために皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして毎月定額（1,000円単位）のご寄付で支えてください（クレジットカードのみ）。また、団体活動全般へのご寄付は以下の口座で受け付けています。

- 銀　行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964
- ゆうちょ：00140-6-361805
  上記いずれも口座名義は
  「シャ）シビックフォース」
- クレジットカード:HP「オンライン募金」より ▶

SNSで最新情報をお届けします

シビックフォース

ニュースレターのバックナンバーはこちら▼
https://www.civic-force.org/about/publication.html

メールマガジン「被災地の今を知る」登録▼
https://www.civic-force.org/mailmagazine/index.html

CIVIC FORCE NEWS LETTER シビックフォース ニュースレター
vol.36
2025年夏号
発行・公益社団法人 Civic Force（緊急即応チーム）
本部事務所：〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階
TEL：03-5790-9366　FAX：03-5790-9368　E-Mail:info@civic-force.org
佐賀事務所：〒840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5 まるなかビル6階